

和解を導いた力

—西松建設裁判原告団長 呂学文さんの闘いをふりかえる—

日 時：2021年10月16日(土)14:00～16:30

会 場：広島弁護士会館 3階ホール（広島市中区上八丁堀 2-73）

参加費：500円

主 催：広島安野・中国人被害者を追悼し歴史事実を継承する会



「安野受難労工聯誼会」結成大会で
会長に選出された呂学文さん
(1995年8月15日、河北省保定市)

アジア・太平洋戦争の末期、労働力不足を補うために、東条英機内閣が閣議決定して、中国から約4万人の中国人を強制連行し、全国135か所の事業場で重労働に従事させました。その結果、約7,000人が日本で命を落としました。生き残った中国人は、日本敗戦後、何の補償も受けることなく集団で帰国しました。広島では、西松組（現在の西松建設）が360人を安野発電所の建設工事に従事させ、29人が死亡（うち5人は原爆死）し、331人が帰国しました。

安野へ強制連行された中国人のその後の消息は長く明らかになっていませんでしたが、1992年から広島市民と河北大学による日中共同調査が始まり、93年には被爆者である呂学文さんと孟昭恩さんが半世紀ぶりに来日しました。二人は、西松建設に対して3項目要求（公式謝罪、追悼碑と記念館建設、しかるべき賠償）を提出しました。以後、呂学文さんは、被害者の組織である「安野受難労工聯誼会」の会長、そして西松建設裁判原告団長として、正義と公道の実現に向けて全力を傾けたのです。

「済南の捕虜収容所でも、日本へ連行される船中でも、安野のトンネル工事の間にも、広島刑務所で被爆しても死ななかった。飢え死にもしなかった。五回も死んでもおかしくない目にあったが、私はそのつど生き延びることができた。私の命は亡くなった仲間が与えてくれたものだと思っている」——呂学文さんは、このような思いをよく口にしていました。

呂学文さんは、2003年に病気のため81歳で亡くなりました。広島高裁勝利判決（2004年）を聞くことなく、和解成立（2009年）の場に立ち会うこともありませんでした。しかし和解という形での問題解決への道を牽引した最大の原動力の一人が、呂学文さんであったことは間違いありません。

本集会では、こうした呂学文さんの闘いの軌跡を、映像や証言を交えながら、さまざまな角度からふりかえります。今年も、コロナ禍のため昨年に続いて中国から遺族をお招きすることができませんが、山東省済南市在住の呂志英さん（呂学文さんの次女）とリモートでつないで、お話を聞く予定にしています。ふるってご参加ください。

なお、新型コロナウイルス予防対策としてマスクの着用をお願いいたします。
また会場は全席指定となりますので、ご協力をお願いいたします。

参加の事前予約は必要ありません。会場に直接おいでください。

＜プログラム＞

第1部 ニュース映像で見る呂学文さん

第2部 呂学文さんを語る

足立修一（弁護士）

金子哲夫（広島県原水禁代表委員）

石岡修（広島県教職員組合元執行委員長）

杉原達（元西松安野友好基金運営委員）

第3部 遺族が語る呂学文さん

呂学文さんの次女・呂志英さんと
リモートでつながります

呂学文さんの軌跡



河北大学の調査に答える呂学文さん。
粘り強い調査により 27 か所目で探し出された
(1993 年 1 月、山東省済南市の自宅)



広島市民による聞き取り調査が終わり
呂学文さんの家族と記念撮影
(1993 年 4 月、山東省済南市の自宅)



被爆直後の市内を示す模型で
広島刑務所を指差す呂学文さん
(1993 年 7 月、原爆資料館)



48 年ぶりに来日して安野発電所を再訪。
坪野貯水槽で当時の強制労働をふりかえった
(1993 年 7 月)



西松建設中国支店を訪問。
3 項目要求を提出し、補償交渉を
開始した (1993 年 8 月)



安野中学校で子どもたちに体験を証言する呂学文さん (1993 年 8 月)



Ex-slave labourers stage protest
Eighty-two-year-old Hong Kong protester Lu Xuewen (centre), who survived being a slave labourer and the world's first atomic bomb attack in Hiroshima, protest yesterday with a group of Japanese activists in Hong Kong against Japan-based Nishimatsu Construction for allegedly

呂学文さんが香港を訪問。香港の支援者と一緒に
西松建設香港支店までデモ行進して抗議活動を行なった。日本からも支援者が参加した
(2001 年 8 月 7 日付 英字新聞 "CHINA DAILY")

呂学文さんの次女・呂志英さん

2010 年 10 月、和解事業の
第 1 回訪日団として初来
日。記念碑の除幕式に参加
した。

両親の写真を掲げて、碑建
立を待ち望んでいた父が
立ち会えなかったことに
悲しみを新たにした。



【連絡先】 広島安野・中国人被害者を追悼し歴史事実を継承する会

《電話》 080-3880-3840 《Eメール》 ykkwhr@pony.ocn.ne.jp 《ホームページ》 <https://keishousurukai.com/>